# Schoolな人々

酔仙

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

## 注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
Ｓｃｈｏｏｌな人々

【Ｎコード】
Ｎ２９０２Ｍ

【作者名】
酔仙

【あらすじ】
前タイトルは「八神家の日常」でしたが、八神家一同だけではネタが持たず、
Ｓｃｈｏｏｌキャラを加えて、より４コマちっくにより短い文章で笑いを追求する事にしました。

このお話は、４コマ漫画を妄想してニヨニヨしながら読んで頂けるとありがたいです。

ちょっとお馬鹿でアレなＳｃｈｏｏｌキャラと八神家の日常を４コマ漫画風に小説？にしてみました。

１話当たりの文章が非常に短いです。
ぐだぐだな事もかなりあります。
ネタを思い付いた時しか更新しません。
それはちょっとと言う表現もかなり出てきます。

それでも付き合ってやろうと言う奇特な方だけ読んで頂ければ嬉しいです。

では、お楽しみ下さい。

## 前書き（前書き）

あまり突っ込まないで欲しいのです。

## 前書き

前タイトルは「八神家の日常」でしたが、八神家一同だけではネタが持たず、
Ｓｃｈｏｏｌキャラを加えて、より４コマちっくにより短い文章で笑いを追求する事にしました。

　このお話は、４コマ漫画を妄想してニヨニヨしながら読んで頂けるとありがたいです。
ちょっとお馬鹿でアレなＳｃｈｏｏｌキャラと八神家の日常を４コマ漫画風に小説？にしてみました。

１話当たりの文章が非常に短いです。
ぐだぐだな事もかなりあります。
ネタを思い付いた時しか更新しません。
それはちょっとと言う表現もかなり出てきます。

　それでも付き合ってやろうと言う奇特な方だけ読んで頂ければ嬉しいです。

では、お楽しみ下さい。

## 前書き（後書き）

この先も宜しくお願いいたします。

## シグナム・・・・怖いわ！（前書き）

エアコンが壊れてしまった八神家、しかしそんな夜中シグナムが…

…

**シグナム・・・・怖いわ！**

「暑いなぁ、寝苦しいなぁ、なんでこんな時にエアコン壊れてしまうかなぁ」

「今度の休みまで業者呼べへんし、あと三日もあるし」

シャコーン、シャコーン

「うーん」

シャコーン、シャコーン

「何の音や？」

シャコーン、シャコーン

はやては、そっとシグナムの部屋を覗いてみる。

「タカマチシロウコンドコソコロス」

シャコーン、シャコーン

「ひぃぃぃぃぃ～」

「！」

「主、そこで何を？」

「シ、シグナム、怖いから夜中にレバ剣研ぐのやめてな」

一瞬で暑さがぶっ飛んだはやてだった。

## シグナム・・・・怖いわ！（後書き）

次回はシャマルが……

**シャマル・・・・怖すぎや！（前書き）**

エアコンが壊れてしまった八神家、そんな夜中シャマルが……

**シャマル・・・・怖すぎや！**

「暑いなぁ、寝苦しいなぁ、なんでこんな時にエアコン壊れてしまうかなぁ」
「今度の休みまで業者呼べへんし、あと二日もあるし」

シャキッ、シャキッ

「うーん」

シャキッ、シャキッ

「何の音や？」

シャキッ、シャキッ

はやてはそっとシャマルの部屋を覗いてみる。

「うふっ、明日は久しぶりの司法解剖よ、ウフフフフフフ」

シャキッ、シャキッ

「いやぁぁぁぁぁぁぁぁぁあ」

「！」

「はやてちゃん、そこで何を？」

「シャ、シャマル、怖すぎや、夜中にメスを研ぐのやめてな」

怖くて寝られなくなったはやてだった。

**シャマル・・・・怖すぎや！（後書き）**

さて次回は何が……

## VSヤブ蚊（前書き）

エアコンが壊れてしまった八神家さてどうなる？

## VSヤブ蚊

「暑いなぁ、寝苦しいなぁ、なんでこんな時にエアコン壊れてしまうかなぁ」
「あと1日の辛抱や」

ぷ～～～～～～～～～～ん
ぷ～～～～ん、ぷ～～～～～～～ん

「ぁ～～～～～～～鬱陶しい！」

ぷ～～～～～～～～～～ん
ぷ～～～～ん、ぷ～～～～～～～ん

「うるさい！眠れへんやろ」

ぷ～～～～～～～～～～ん
ぷ～～～～ん、ぷ～～～～～～～ん

「クソッ殺虫剤も切れてるし、どうにもならんわ」

ぷ～～～～ん、ぷ～～～～～～～ん
ぷ～～～～～～～～～～ん

「シグナム、なんとかして！」

ぷ～～～～～～～～～～ん
ぷ～～～～ん、ぷ～～～～～～～ん

「うりゃ〜〜〜〜〜〜〜〜」

「うわっ、危な！剣を振りまわさんといてや、その剣じゃあ蚊は斬れへんて」

ぷ〜〜〜〜ん、ぷ〜〜〜〜〜〜〜ん

ぷ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜ん

「うふふふふふ、じゃあこの小瓶の液体を蒸発させてみましょうか？」

「なんやそれ？」

「硫化水素よ」

「あかんやろ、それ、蚊よりも私らが死んでまう」

ぷ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜ん

ぷ〜〜〜〜ん、ぷ〜〜〜〜〜〜〜ん

「眠いよ、はやて」

「ヴィータはええ子やから寝とりぃ」

ぷ〜〜〜〜ん、ぷ〜〜〜〜〜〜〜ん

ぷ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜ん

「こうなったら焼き払ってやる」

むずっとアギトを捕まえる。

「あかん、この家を燃やす気か？」

ぷ～～～～～～～～～～ん

ぷ～～～～ん、ぷ～～～～～～～ん

ぺちっ

「これで良いだろう」

「ザフィーラどうして？」

「俺は夜行性だから夜でも見えるのさ」

ザフィーラ、ヤブ蚊に勝利！

※オオカミは夜行性

## VSヤブ蚊（後書き）

さてヤブ蚊と来れば今度はＧです

## VSゴキブリ（前書き）

さあ、今度の相手はゴキブリです。

## VSゴキブリ

「さあ、今日1日の辛抱やで、午後には業者さんが来てくれる」

カサコソカサ

「ゴキブリや～」

「イヤ～～～～～～～～」（シャマル

「気持ち悪いですぅ」（リィン

「叩き潰してやる」（ヴィータ

「後片付けはどうするんや？」

「うっ」（ヴィータ

「あ、隠れた」

「こうなったら焼き払ってやる！」（アギト

「だから、家を燃やさんといて」

「誰が殺る？私は嫌やで」

「それと殺った人が片付けるんやで」

「仕方ないなぁ」

はやては、むずっとリィンを捕まえた。

丁度ゴキブリが出てきた所だった。

「リィン、このまま冷凍光線発射や」

「ハイです」

冷凍光線によって、氷漬けになるゴキブリ、抹殺成功だ。

「氷ごと外に放り出してしまお、あとは蟻さんが片付けてくれるて」

リィン、ゴキブリに勝利。

「これが本当の氷殺スプレーや、どや」

## VSゴキブリ（後書き）

相変わらずほのぼのしている八神家です。

## 本当にあった笑うに笑えない話シリーズ？（前書き）

白衣の天使は悪魔だった？

## 本当にあった笑うに笑えない話シリーズ？

ここは、地上本部総合医療センター、シャマルの職場である

そして、シャマルが今夜当直するのは、老人科病棟。
要介護度5に達した、いわゆる「植物人間」に近い老人達ばかり入院している病棟である。

シャマルは聞いてしまった、その恐ろしい会話を……

「え～、やだ、間違えちゃったの？」

「そうAさんとBさんの薬を間違えちゃった」

「でも良いよね、取り敢えず生きてるし」

「私なんかぁ、胃婁チューブのキャップ閉め忘れちゃって、流し込んだ流動食が全部ベッドの下に逆流してたよ」

「それって不味くない？栄養取れないとすぐ衰弱して死んじゃうし」

「大丈夫、後からくすねてきた栄養剤の点滴を打っといたから」

「私は、Cさんを車椅子からベッドに移そうとして下に落としちゃった」

「それって超やばくない？」

「大丈夫だって、誰も見てなかったし、今のところ生きてるし」

「ここの連中よく生きても半年ぐらいだから、何時死んだって不審がられないし」

「死んだって先生のせいにしちゃえば私たち関係ないし～」

「キャハハハハ」

「あの子達、吊してやろうかしら？」

シャマルの額に四つ角がいくつも出来ていた。

作：これは実際、私がある病院のナースステーションの前で立ち聞きしてしまった本当の話です。

医療業界の裏側は恐ろしいです。

## 本当にあった笑うに笑えない話シリーズ？（後書き）

病院て恐ろしいです。

## 本当にあった笑うに笑えない話シリーズ？（前書き）

白衣の天使は悪魔だった。

**本当にあった笑うに笑えない話シリーズ？**

ここは、地上本部総合医療センター、シャマルの職場である

そして、シャマルが当直するのは、今夜も老人科病棟。
要介護度５に達した、いわゆる「植物人間」に近い老人達ばかり入院している病棟である。

シャマルは聞いてしまった、その恐ろしい会話を……

「私は３０１号室のＡさんが良いな」

「私は３１５号室のＢさんかな？」

「私は３０７号室のＣさんに１０００円」

「オッズは、Ａさんが１．６倍、Ｂさんが２．５倍、Ｃさんが５．５倍、Ｄさんが９．４倍よ」

「第５回、期間限定、誰が早う死ぬかレース」

とんでもない賭け事が行われていた。

「あの子達、本気で吊してやろうかしら？」

シャマルの額に四つ角がいくつも出来ていた。

## 本当にあった笑うに笑えない話シリーズ？（後書き）

本当にあるから怖い

## 参議院選挙２０１０（前書き）

はやてさんは選挙に行くのでしょうか？

## 参議院選挙２０１０

「そう言えば不在者投票してこんとあかんなぁ」

「主、不在者投票とは何でしょうか？」

「そう言えばシグナム達って、選挙に行ったこと無いんよな」

「あのな、不在者投票言うのはな、選挙当日に投票出来へん人の為に、先に投票させてくれる制度やねん」

「私は、まだ海鳴りに籍が置いてあるやろ？、だから海鳴りで投票せなあかんねん、ここ日本大使館ないし」

「一応海外移住の届けは出してあるから、イギリス経由で選挙の案内が届く筈や（グレアムさんのとこから）」

「でもな、あんまり投票したくはないねん」

「義務なのでしょう？何故です？」

「じつはな、今の与党、あまりにもアホすぎて投票する気にもならんねん」

「選挙の告知があったときにな、人の名前を借りて自分の票集めしようとしたアホがおるんよ」

「初めはなのはちゃんとフェイトちゃんにオファーがあったそうや」

「でもな、あの二人は票が欲しかったら実力で選挙に臨みなさいゆうて断ったそうや」

「そうしたら、そのおっさん、今度はヴォーカロイドの初音ミクとか言うアイドルにお願いに言ったのよぉ」

「しかもそこでも断られた上に、そのことがブログでも大炎上して大変なことになったらしいのや」

「もう投票前から落選決定やねん、選挙する意味ないし」

「そこまではどうでもええ話やねん」

「でもな、なんであの二人にオファーがあって、私にないのよ？」

「不公平や、これでもかなり有名人やで？」

「なんか腹立つな～」

「主、それは人徳というか、日頃の行いが原因なのではないでしょうか？」

「うっ、そう突っ込まれると返しようがないなあ」

## 参議院選挙２０１０（後書き）

民主党終わったな

## 本当にあった笑うに笑えない話シリーズ？（前書き）

この不良看護婦共なんとかして欲しい

## 本当にあった笑うに笑えない話シリーズ？

ここは、地上本部総合医療センター、シャマルの職場である
昼食は、職員食堂で取るのが一般的だ。

ご多分に漏れず、シャマルもまた食事中だった。
今日の昼食はカレーだ。
ここの食堂、カレーが結構美味しくて評判は良い。
食べている内の3割ぐらいはカレーだった。

その食堂にやってくるあの一団、そうあの不良看護婦達、定食物を取って着席するとお喋りしながら食事が始まる。

「……でね、Aさんのおむつを替えててさぁ、便がこぼれちゃったのよ」
「便が」

（あの、食堂でそう言う話はしないで欲しいのですが……）

誰もがそう思ったが、そんな物はお構いなしだ。

「もうね、ビチビチでカレーみたい……」

カレーを食っている連中がフリーズする。
それでもお構いなしに汚い話が進む。

シャマルの手に持ったスプーンがふにゃりと曲がる。
もう、怒りが頂点に達していた。

食堂は彼女たち以外、水を打った様に静まりかえっている。
結局、彼女たちは「便が」を連呼して食堂を出て行った。

「あの馬鹿、いい加減にしろ！」

「空気読めドアホ！」

「消えろ！」

「誰かあいつら抹殺しろよ！」

食堂には、罵声が響いていた。

（いい加減、吊すしかないようね）

シャマルが殺意を募らせていた。

## 本当にあった笑うに笑えない話シリーズ？（後書き）

これも本当にあった話、以前デイサービスのアルバイトに行っていた時、
すぐ後ろでやられたんだよ。

## 草刈り（前書き）

毎年恒例というか、毎年悩まされるのが、この草刈りなのだ。
とにかく家の回りだけは草刈りをしない訳にはいかないのだが、それでも相当広い。

## 草刈り

「あーあ、なんでせっかくのお休みに草刈りせなあかんねん」

「それは主がこんなに広い土地を買おうと言ったからではないですか」

そう、八神家はかなり広い土地を所有している。
国道から約２ｋｍ、私道を通ってたどり着いた丘の上の一軒家、
家から海岸までは約３００ｍ、途中に林がある。

家の南西に小さな岬があり、そこから東側に大きな入り江になっている。
入り江の左端に磯場があって、その先はずっと砂浜が続いている。

この磯場から岬までは八神家のプライベートビーチだ。
締めて約２万坪、とんでもない広さである。

まあとにかく、この辺り辺鄙な所で車を使わないと生活出来ないことから、
土地は非常に安かった。
調子に乗って売りに出ていた所を全て買い取ったら、こんな事になってしまったのだ。

そして、毎年恒例というか、毎年悩まされるのが、この草刈りなのだ。
とにかく家の回りだけは草刈りをしない訳にはいかないのだが、それでも相当広い。

そして、シグナムとザフィーラの3人で草を刈る。
因みにシャマルは、「医者は指先の感覚が命だから、草刈機は絶対に持ちません」と言って
絶対に手伝ってはくれない。

ヴィータやリィン、アギトでは体格的に草刈り機は無理だ。

仕方ないので、この3人でやるしかない。

「しかし誰やねん、こんな広い土地を買おうって言ったの？」

「主ですよ、主」

「そ、そうだったかなぁ？」

「大体、スイカ割りがしたいとか言ってプライベートビーチまで買ったのはどこの誰ですか？」

「なんかむちゃくちゃやねん」

「だからそのむちゃくちゃは主ですよ」

「そ、そうだったかなぁ？あはははははは～」

笑って誤魔化すはやて、でもそう簡単には草刈りは終わらない。

「そうや、ええ事思い付いたで」

呼ばれたのはリィンとアギト、はやてからの指示が飛ぶ。

「ええか、アギトは家と林の間の草を焼き払うんや」

「オッケー、任しとけ」

「リィンは家に燃え移りそうになったり、林に燃え移りそうになったら消火をお願いするわ」

「ハイです」

流石に作業が早かった。
あっという間に草を焼き尽くし、無事に消火して作業を完了した。

「しかし勿体ないなぁ、この空間、畑でも作ろうかなぁ」

こうして八神家開拓記が始まる。

## 草刈り（後書き）

次回：八神家開拓記スイカ編をお送りします

## 八神家開拓記スイカ編（前書き）

じゃあ、スイカ割りしような」

よく冷えたスイカを真ん中に、砂浜に埋められたのは右側にシャマル、左側にザフィーラだ。

## 八神家開拓記スイカ編

「はやてちゃん、畑を作るにはまず土作りからですよ」

リィンが、「初めての園芸」を読みながら説明する。

はやては、耕耘機に鍬、その他必要な農業資材に肥料などを買ってきた。
ついでに生ゴミ処理機も買ってきた。

「生ゴミかて、処理すれば立派な資源や」

とにかく草の無くなった場所に肥料や堆肥を撒いては、耕した。
そうやって冬を越し、翌年の４月種をまいた。

種を蒔いたのは、トウモロコシ、スイカ、空芯菜にピーマン、トマトに、プリンスメロン、

どれも天候の安定したミッドチルダでは、あまり手をかけずに育つ物ばかりだ。
おまけに、これだけ家庭菜園を作ると、買い物しなくても済むので楽である。

「それでも空いた土地にはお芋を作るです」
「サツマイモは凄く茂るし、サツマイモのある場所は草も生えないから草取りしなくて良いです」

植えた品種は、焼き芋が美味しい鳴門金時に、安濃イモ、スイーツの材料の紫イモ、

秋が楽しみな状態となった。

7月下旬、夏野菜が取れ始める。
スイカは10本の苗から50個が取れるという豊作だった。

「じゃあ、スイカ割りしような」

よく冷えたスイカを真ん中に、砂浜に埋められたのは右側にシャマル、左側にザフィーラだ。
目隠しをした、シグナムがレバ剣を手にふらふらと近寄ってくる。

「いや～～～～～～！こないで～～～～～～～」

「もっと右だ～～～～～～」

「もっと左よ～～～」

ザクッ

「ふう、惜しいなもうちょっとだったのに」

剣は、シャマルとスイカの間に振り下ろされた。

今度は、目隠しをしたヴィータが、グラーフアイゼンを手にふら

ふらと近寄ってくる。
しかも、ラケーテンハンマーだ。
「いや～～～～～～～！こないで～～～～～～～～」
「もっと右だ～～～～～～～」
「もっと左よ～～～～」
ザクッ
「ぁ、外した」
ハンマーはザフィーラと、スイカの間に振り下ろされていた。
「殺す気か！」
ザフィーラが怒っている。
更に、目隠しをしたはやてがシュベルトクロイツを手にふらふらと近寄ってくる。
「いや～～～～～～～！こないで～～～～～～～～」
「もっと右だ～～～～～～～」
「もっと左よ～～～～」
ドカッ……ビキッ

「あ、スイカ石になってもうた」

「本気で殺す気だろ！」

二人が怒っている。

こうして八神家の夏は過ぎて行く。

## 八神家開拓記スイカ編（後書き）

次回はお芋編をお届けします。

## 迷刑事はやてシリーズ、ＶＳ　スカリエッティ？（前書き）

「つまり、年端もいかない子供達を妊娠させるとは言語道断！」

**迷刑事はやてシリーズ、ＶＳ　スカリエッティ？**

「おや、八神はやてではないか？」
「一体何の用だね？事件のことについては喋らないよ」
「スカリエッティ、今日はお前に刑期の追加を言い渡しに来た」
「一体どんな罪なのかな？身に覚えが有りすぎてよく分からないのだが？」
「ズバリ、児童福祉法違反（淫行罪）や」
「何が言いたいんだね？さっぱり理解出来ないのだが？」
「事件当時、フェイトちゃんは１９才やった、
そしてスバル達を含む戦闘機人は全てフェイトちゃんより年下と言うことになる」

ギクッ！

「スバルとギンガはお前が下請けに出していた組織が作り出した存在や、
しかもそのデータを使ってナンバーズ達を生み出した」

ギクギクッ！

「更に遺伝子解析の結果、スバルとギンガのテロメアの長さは一緒だったことが判っとる、
これは、スバルとギンガは双子だった言うことや、見た目の年齢で

判断されたけど、
当時二人とも１６才だった言うことや、つまり、あのウーノでさえ１５才以下だった言うことや」
「あんな顔しとるからわからなんだわ（３０過ぎのおばさんかと思ってたし）」
・・・・・・・・
「つまり、年端もいかない子供達を妊娠させるとは言語道断！」
「し、証拠はあるのかね？」
「有るよ、中絶した胎児、全て証拠物件で抑えてあるし、
遺伝子解析の結果、父親は全てお前だという結果が出てるし、言い逃れは出来ないんや」
青ざめるスカリエッティ、
「スカリエッティ、児童福祉法違反で、懲役７年半Ｘ１２人で９０年の刑期追加や」
「良かったなあ、これから変態ロリコン博士って呼んで貰えるで？」
「ＯＨ，ＮＯ～～～～～～～～～！！！！！」
壁に頭を打ち付けるスカリエッティが居た。
ジェイル・スカリエッティ、史上最悪のロリコンと呼ばれる性犯罪者は、
今も４７番世界の軌道拘置所に収監されている。

## 迷刑事はやてシリーズ、ＶＳ　スカリエッティ？（後書き）

もう終身刑だよね。

一応、時系列別に検証してみた結果、ウーノさんの年齢が判明した訳です。

まず、プロジェクトフェイトによってフェイトさんが誕生します。
そのデータを回収して、戦闘機人の構想と共に、下請けに出します。
大体実験を繰り返したり、データの検証をしたりして1年、
更にそこからスバル達の製造を始める訳ですから、最低でも2才以上年が離れている訳です、
また、同一組織がタイプゼロを2年もの間隔を置いて作るというのは考えにくい、その場合ロットナンバーが違っているはず。
スバルとギンガは同時期に作られたか、一人作ろうとしたら受精卵が二つに分かれてしまった、
いわゆる1卵生双生児の可能性が高いと解釈する方が自然です。
ですから、この場合実はギンガもスバルと同じ１６才だったと考える方が自然である。
更に、そのデータを回収して、ウーノを製造する訳ですから、ウーノはスバルより1才以上年下でなければならない。
更に、ウーノを長女とした場合、１２番のディードとは、７年もの年齢の開きがある訳で、
と言うことは、ディードは実年齢8才という事になる。
つまり、かなりのロリを妊娠させたと言うことだな。

蛇足だが、人類の出産記録の最低年齢は9才だそうだ（ギネスに出ていた）。

だから8才での妊娠は有り得ることだ。

ジェイル・スカリエッティ、とんでもないロリコンだな。

有る意味羨ましいが・・・

## 迷刑事はやてシリーズ、ＶＳ　スカリエッティ？（前書き）

今回もスカ博士をいびります

**迷刑事はやてシリーズ、ＶＳ　スカリエッティ？**

「スカリエッティいや、変態ロリコン博士、
今日はちょっと聞きたい事が有って来た」

「なんでそこまで呼び名が酷くなるんだ！！」

「この前そう決めたからや」

そう、はやての目の前にいるのは、
希代の変態ロリコン男、ジェイル・スカリエッティ
そして次元世界一の頭脳を自負している彼であったが、
その化けの皮が剥がされようとしていた。

「スカリエッティ、お前一体何を発明した？」
「プロジェクトＦの技術だって、元々はアルハザードのものやし、
ガシェットドローンやって、元々ゆりかごに残っとった物を真似して作ったただけや
まあいろいろと改造はしてあったけど……」

「ナンバーズ達が居るだろうが！！」

「あれかて、ただの真似事やん、プロジェクトＦの技術に、
ちょっと改造を加えただけやし、しかもその技術自体、下請けが開発した物や
そのデータを貰って作った所で、それは発明にはならへん」

「グッ」

「本当の天才なら、もっと多くの物を発明してるだろうけど、
お前のやっとるのはただの真似事で、発明の一つもやっとらんのとちゃうか？」

「それに本当に天才なら、こんな所で収監されてたりはしない筈や」

「お前は偽りの天才やったっちゅう事やな、アミバと同じや、
大した頭脳は無いっちゅう事や」

「ＯＨ，ＮＯ～～～～～～～～～」

壁に頭を打ち付けるスカリエッティが居た。

ジェイル・スカリエッティ、史上最悪のロリコンと呼ばれる性犯罪者は、
今も４７番世界の軌道拘置所に収監されている。

## 迷刑事はやてシリーズ、ＶＳ　スカリエッティ？（後書き）

この先、はやてにいびられるキャラとして頑張って下さい。（笑

## 八神家開拓記お芋編（前書き）

秋です、お芋の美味しい季節です。

## 八神家開拓記お芋編

秋である。
地球も、次元世界も全国的に秋である。

初夏に植えたサツマイモが収穫の時期を迎えている。

まずは芋掘りだ。
だがそれは予想を超えた収穫となった。
どうしよう？これ、とても食べきれるような物ではない。
紫イモに、安濃イモ、鳴門金時と合わせて約１．５ｔもの凄い収穫だった。

取り敢えず室を作ろう、林の中の急斜面に横穴を掘る。
後は崩れないように木材を組んでドアを付ければ室は完成する。
きつい土木作業は、ザフィーラの仕事だ。
取り敢えず、来春まで食べる分は確保して、後は管理局で配ろう。

「じゃあ、恒例の焼き芋大会や」

今まで買ってきたサツマイモでやっていた焼き芋を、
今度からは心おきなく焼き芋に出来る。
それは、はやて達にとってこの上ない幸せだった。

焼いたのは、鳴門金時と安濃イモだ。

「やっぱこの味やね」
「美味しいですぅ～」
「うめぇ！」
「うむ、これはなかなか」
次に安濃イモを試してみる。
「あ、甘い！まるで焼き芋のバニラアイスや～」
と彦磨呂風にコメントが出てしまう。
安濃イモは普通に作っても糖度２０度以上、時に糖度３０度を超える事もある。
しかも焼き芋にすると中はクリーム状になるのだ。
「バニラアイス」「カスタードクリーム」と表現されるのは、その甘さ故である。
「アレ？もう無い？」
「じゃあ次を焼こうか？」
「どうしたん？リィン、顔が赤いで？」
何かを我慢しているリィン、ちょっと困っていた。
Ｐｕ
「あ、可愛いヲナラや」

「いやぁぁぁ、嗅がないで下さい！」

思わずリィンのお尻に頬ずりするはやて、真っ赤な顔で照れるリィン、

「別に照れへんでもええよ、ここにいるのは家族だけやし」

ぷっ

「ぁ出てもうた」

「ええい、こうなったら無礼講や、みんなで出すで」

ＰＵ
ぷっ
ぷう～
スカ～

「うわっくっさ～誰やすかしたのは？」

ぶっ
ぶぅぅぅぅぅ

「誰や？今の汚い屁は？」

「はやてちゃん、おならと屁の違いって何ですか？」

「可愛かったらおならで、汚かったら屁や」

「じゃあアギトのは屁です」

「なんだと〜？燃やすぞコラぁ」

アギトが手の上に火を出した瞬間だった。

ドッカ〜〜〜〜ン

充満していたおならに引火したようだ。

「家が〜〜〜〜まだローンが残ってるのに〜〜〜〜」

こうして、修理が終わるまで不自由な暮らしを強いられる八神家だった。

## 八神家開拓記お芋編（後書き）

焼き芋をするなら外でやりましょう。
中でやってると大変な事になるかも？

## クラヴィンの糸（前書き）

これは、以前黒猫エリカさんに出したお題、
芥川龍之介の「蜘蛛の糸」を、なのはキャラでパロったらどうなるか？
と言うのの、私のヴァージョンです。

まあ、駄文ですが、楽しんで頂けたら幸いです。

## クラヴィンの糸

それは、はやてがこの世を去って３００年以上経った時の出来事。

「久しぶりやなぁ、待っとたで？」

三途の川の向こう側、そのお花畑ではやては待っていた。
シグナム達ボルケンリッターがやってくるのを。

「お久しぶりです、主、我々もこちら側の住人になりました」

相変わらず硬い挨拶をするシグナム、
そこへ涙を一杯浮かべたリィンとヴィータが抱き付いた。

更に現れたのは、初代リィンフォース、

「これからは、”アイン”と呼んで下さい」

「じゃあ、そろそろ行こうか？」

こうして閻魔殿まで来た物の、判決は天国行きだった。

「なんで？」

「お前達は現世にいる内に充分罪を償っている。
依って地獄に落とす必要はない」

こうして、天国での生活が始まった。
別に生きていた頃と代わらない暮らし、
死んでいるので食べる必要はないようだ。

「そう言えば高町なのはは？」

そう聞いたシグナムに、はやてが答える。

「なのはちゃんは、ユーノ君と二人、天国の大学を卒業して神様やってるよ、
今ミッドに居るから、ここにはもうおらんなぁ」

何でも、天国に来た連中は普通に生まれ変わるか、特殊な転生をするか、
神様になるからしい。

中でも、魔力や徳が異常に高いと人間への転生は不可能で、
神様をやるか魔界で魔王をやるか以外にないようだ。
そのいずれでもない場合は、永久に天国の住人として暮らすようだ。

そんな訳で、一月もすれば余りの暇さに持て余し大学へ通うはやて達だった。
彼らは、魔力が高すぎて転生は不可能なので、大学は神様学部だ。

ある日の事、キャンパスの中庭で、お昼の休憩を取っている八神家、
シャマルはふと池の中を覗き込んだ。

蓮の葉の間から池の底に地獄が見える。
本来なら、自分たちが落ちていたであろう場所、
魂の浄化がなされるまでは、永久に苦痛と苦しみを与えられる場所、
そんな中に、見知った顔を見つけた。

クロフォード、嘗て自分の弟子だった男、人の命を弄び、
遊び半分に殺した男、それをシャマルが始末した苦い思い出。

だが彼とて始めから悪人だった訳ではない、いつの間にか自分の
力に溺れ、
おもしろ半分にその力を使い、更にはそれで金儲けまで始めてしま
った。
でも、シャマルに弟子入り仕立ての頃は、なかなかの好青年で将来
性もあった。
どこで間違ってしまったのだろう？
それを思いながらシャマルは池の中を覗き込むのだった。

そこへ普通生まれ変わり学部の教授、お釈迦様が通りかかった。

「何か気になる者でもいるのかね？」

「はい、嘗ての私の弟子で、今は人を殺め地獄に堕ちているあの者に
もう一度人間としてやり直させてやりたいのですが……」

「なるほど、君は優しいな、なら一度だけチャンスをやろう、
この池に向かって、あの者に向かって糸を垂らしなさい、
見事吊り上げられたなら、あの者を生まれ変わらせてあげよう」

お釈迦様はそう仰いました。

早速クラールヴィントの糸を伸ばして、
クロフォードの救済に乗り出したシャマルだった。

一方地獄では、今日も今日とて鬼に金棒で度突き倒され頭をかち割られ、
血の池に放り込まれる日が続いているクロフォード、
一旦沈んで浮かび上がると、体は元通りだ。

浮かび上がった所でまた引きずり上げられ、度突き倒される。
そんな日々が続いているのだった。

それは池の中からふと見上げた空に、何か輝く物を見つけた。
青い小さな宝石の付いた金色の糸、それが空からするすると降りてくる。

（もしかしたらここから抜け出せるかも知れない）

彼は、その糸が手に届く瞬間を待った。
糸が手に届くと、その糸を頼りに上り始める。

だが、その姿に気付いた亡者共が後から後から上ってくる。

「俺も連れて行ってくれ～」

「来るんじゃねえ！これは俺の物だ！俺は何としても生き返って、
今度こそ俺の理想郷を、俺が何をしても許される世界を手に入れるんだ！」

その瞬間だった。

ペンデュラムは亡者共をはね飛ばし、クロフォードの首に巻き付くと、
そのまま一気に彼の首を斬り飛ばした。
クロフォードはそのまま落下し、より深い地獄へと堕ちていった。
そんな彼の様子を見ていたシャマルもお釈迦様も
深い深いため息を付いたという。
「所詮、咎人は地獄で浄化が終わるまでは、救済は出来ないだろう」
お釈迦様はそう仰って、その場を後にした。

## クラヴィンの糸（後書き）

他の作家さんでも同じお題でどうなるのか見てみたいです。

## 我が輩は犬である（前書き）

夏目漱石の「吾輩は猫である」をパロって見ました。

余り出来は良くないですが……

まあ、駄文です。

## 我が輩は犬である

我が輩は犬である、いや、オオカミである。

名前はザフィーラ、人は皆ザッフィーと呼ぶ。
オオカミではあるのだが、誰もそれに気づいてくれない。

だから我が輩は犬である。
普段は寝ている。
昼寝は大好きだ。

「働かざる者食うべからず」という物の、殆ど働いていない。
別に犬をしている限り働かなくても食べていける。
ペットとはそう言う身分である。

ただ、ここの食事は不味い。
どうもこちらのドッグフードは質が悪い。
出来れば地球産の物を出して頂きたい物だ。

まあ、ただ飯を食っている身分では文句の言い様もないのだが……

我が主様は「はやて」という。
以前は、一緒に現場を駆け回り、一緒に仕事をした仲だ。
最近は出世して、お偉いさんになってしまい、現場に出る事もなくなった。
お陰でわが輩も現場を離れ、自宅警備などしている身分である。

同僚だったシグナムは、今でも主様の右腕だ。
未だに最前線で活躍している。

他にも同僚が何人か居る。
まず、シャマル、次元世界一の名医だそうだが、
もっとマシな食事を作れよ！
内科医の腕が泣いてるぞ！
どうやったらそんな殺人的な食い物が作れるんだ？

次にヴィータ。
見た目には結構好きなのだが、性格は……まあ、アレだ。
最近は、教え子達をぶっ飛ばす事に喜びを見出しているらしい。
まあ、典型的なＳだ。

そしてリィン＆アギト、
二人は主様と、シグナムの補佐だ。
非常に優秀で、作る飯も旨い。
それに俺の好みだ。
いや、ストライクゾーンど真ん中だ。

我が輩は犬である。
ちょっと子供好き（ロリコン）だ。

我が輩は犬である。
今は、八神家の番犬をしている。

## 我が輩は犬である（後書き）

働かなくても食べていける身分って有る意味羨ましい。

誰ですか？通報しますたなどと言っているのは？

## フェイトさんの秘密（前書き）

なのはの家ではやてが見た物は？
フェイトさんのとんでもない秘密だった。

## フェイトさんの秘密

「う～、給料日前は流石に辛い」

今はやては仕事帰り、おまけに財布の中は空っぽだった。

いつも勢いだけで無駄遣いをする体質の為、給料日前はこんな感じだ。

「そうや、なのはちゃんの所で何か食べさせて貰おう」

ピンポ～ン

「こんばんは～」

「アレ、電気ついとるし、施錠もしてないのに誰もおらへんのか～？何か奥の方で人の気配はするみたいやけど……お邪魔しま～す。アレ？フェイトちゃんこんな所で何しとるの？」

「なのはとヴィヴィオは今お出かけ中、私がお留守番係、せっかくピザ買ってきたのに冷めちゃうよ～」

（ラッキー、これで食べ物にありつそうや）

「ん？この変なコードは何？」

それは両端がコンセントになった変なコードだった。

「ぁ、それは私の充電用」

説明するより見せた方が早かった。
片方を電源に差し込んで、もう片方を鼻の穴に差し込む、
そうすると頭の上に電池マークが浮かんだ。

今五分の三ぐらいの所で点滅している。

魔力変換資質「電気」は、こうやって電源から直接魔力を充電出来るのだ。
決して視聴者には見せられない姿だった。

「家電か？己は？」

と突っ込みを入れたい所だが、
まあそれはそれで面白いから暫く見ている事にした。

「ねえ、フェイトちゃん？どれ位で充電出来るんや？」

「通常モードなら４時間でフル充電完了、
急速充電なら３０分で３分の１ずつ充電出来ます」

マジで家電だ。

そんなフェイトを見ている内に、いつもの悪い癖が出てしまった。
フェイトの後ろに回り込んで胸に手を伸ばした時だった。

バリバリバリバリ

「ぎゃぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！！！！」

「ぁ、充電中は触らないでね、漏電しやすいから」

「い、以後気を付けます」

充電中のフェイトさんは危険だった。

## フェイトさんの秘密（後書き）

フェイトさんの電気代はどれ位かかるのでしょうか？

## フェイトさんの受難（前書き）

みんなでバーベキュー、しかし……

## フェイトさんの受難

今日は久しぶりに元機動六課ホワードメンバーが揃っての、バーベキュー、

滅多に休みの取れない彼らにとって、こんな事は久しぶりである。
最初はみんなでどこかに遊びに行こうという話だったが、
行く当てもなく、取り敢えず近場でと言う事で、
はやての家のプライベートビーチだった。

とにかく良く喰うのが居るので焼く方が大変である。

「あ、カセットボンベもう空や、
確かボンベの買い置きは……」

既に無かった。
もう使い切っていた。

「困ったなあ、こんな時にボンベが切れてもうた、どないしよう？」

「そんなときの為にこれがあるんじゃない」

なのはがホットプレートを取り出した。

「でも電源がないで？」

「ちゃんとあるわよ、ねっ！フェイトちゃん」

既に真っ青な顔をしているフェイト、その嫌な予感は当たってい

た。

ズボッ

鼻にコンセントを突っ込まれた。

「フェイトママお願いね」

ヴィヴィオにまでそう言われては、やらない訳にはいかなかった。

「ホント助かるのよね、こういう時のポータブル電源は」

「一家に一台あると便利や」

「ひ、酷い！扱いが酷すぎる！」

魔力変換資質「電気」こういう使い方も出来て便利だ。

「ねえ、大体どれ位電力が持つんや？」

「ホットプレートだったら夕方までは余裕だよ、
前は電子レンジも使ってみたけど大丈夫だったから」

なのはは、さらっと酷い事を言う。

「それにね、例えフェイトちゃんが倒れてもちゃんと2号機が居ますから」

その言葉に、その場を逃げだそうとするエリオだったが、
既に逃げられなかった。

キャロが、エリオの足と自分の足をチェーンバインドで繋ぎ止めていた。

「酷い！、僕までそう言う扱いだったなんて！」

「ま、諦めろ」

ザフィーラがご愁傷様という顔をしていた。

## フェイトさんの受難（後書き）

一家に一台欲しいよね？

## ご祝儀の裏側（前書き）

Ｓｃｈｏｏｌの「ご祝儀」の回の裏側です。
そちらを読んでからこちらを読んで頂くと、話が良く分かるかと思います。

## ご祝儀の裏側

「よわったなあ、食費どうしよう？」

「シグナムはどうや？」

「あいにく私も……」

「ヴィータは？」

「同じく」

「シャマルは？」

「私もよ」

「あんまり見栄を張るからそうなるんだよ」（アギト

「仕方ないやろ、ご祝儀って言うのはそう言う物やから、
それに、なのはちゃんぐらい蓄えがあれば何とも無いんやろうけど、
私らはローンがまだ残ってるし、蓄えほぼゼロやし……」

「いつっも無駄遣いばっかりしてるからな？」（アギト

彼らはご祝儀を出したまでは良かった物の、
大見得を切りすぎた事に後悔していた。
何せ今月分の給料全てぶっ飛んでしまった。

普段からこつこつ貯めておけばこんな事はないのだが、

何せその場のノリでいつも無駄遣いしてしまうので、
貯金はほぼゼロ、給料日前はいつもピンチなのだ。

そして、今回はご祝儀で給料がほぼ全て飛んでしまった。

「また今月もイモご飯か……？」（はやて

「お芋があって良かったです」（リィン

「それに畑には野菜もありますし」（シャマル

「ああ～タンパク質が食べたい」（ヴィータ

非常に質素な生活を余儀なくされる八神家だった。

## ご祝儀の裏側（後書き）

（作：貯金ぐらいしましょうね）

## 豆まき（前書き）

八神家の節分は……

## 豆まき

二月三日節分、ここミッドチルダにそんな行事は存在しない。
ここミッドチルダでそんな行事をやろうというのは勿論八神家だけである。
しかも、普通のやり方じゃない。

「と言う訳で、今年の豆まきはサバゲーや！
そしてこれが電動豆鉄砲　ＵＺＩ　や、イングラムと　ＫＧ－９もあるで？」

「主、しょうも無いことに無駄遣いしないで下さい」

「楽しければ取り敢ずＯＫや、鬼はスポンジの金棒で反撃してよし！取り敢ず始めるで？」

鬼はシグナムとザフィーラに決定された。

「鬼は外～」

タタンタタタタタタ

「痛い！当たると結構痛い！」

タタタタタン

「いたたたたたたた」

とまあ今年も馬鹿な方法で豆まきをする。

「いつも思うけど、あたしら何個食えば良いんだろ？」

ヴィータが言うとおり、この中の４人は１５００年を超えるほど生きている。

大豆にしたらもの凄い量である。

「あ、今何個目だか分からなくなった」

「だったらこれはどうや？今夜は湯豆腐やで？」

そう豆腐なら大豆をたくさん食べているのと変わらない。

「主、熱燗を一本付けて貰っても良いでしょうか？」

シグナムが珍しくはやてにおねだりした。

「ええよ、私も付き合うわ」

こうして今年も節分が過ぎていく。

## 豆まき（後書き）

電動豆鉄砲ほすぃ

## VS露出狂（前書き）

「そおなんや、最近町中に出没しとる露出狂なんやけどな、とにかく逃げ足が速くて警邏の連中も捕まえられなくて困ってるのよぉ」

## VS露出狂

「えっ、変質者ですか？」（ヴァロット）

「そおなんや、最近町中に出没しとる露出狂なんやけどな、とにかく逃げ足が速くて警邏の連中も捕まえられなくて困ってるのよぉ」

「別にそんなちんけな犯罪者捕まえても大した罪にも問えないでしょうし、放っておいても良いんじゃないですか？」

「そうも行かんのよ、町のあちこちから苦情が出とるし、そろそろ始末しとかんと上から何言われるか判らんし……」

「だったらいい方法がありますよ、はやてさんと、キャロ先生とシャマル先生でパトロールするんです。別に相手に出くわしても何もしなくて良いです。逮捕の必要さえ有りません。3人でいつも通り行動して頂ければ、その変質者は二度と現れなくなりますよ、きっと」

「そんな逮捕せんでもいいなんて、どういうことや？」

「それは作戦が終わってからお話しします」

1日の授業が終わると、キャロははやてとシャマルと連れだって町を歩く。

大通りより、人通りの少ない裏通りを重点的にパトロール。

なかなか出くわす事はない。
でも、三日目の夕方だった。
はやて達を付ける怪しい影、３人の後ろを付かず離れず付いてくる。
「お嬢さん達！」
声を掛けたのは、ハンチングにサングラス、マスクで顔を隠し、
お約束通りのトレンチコートの男だった。
「見ろ！」
コートの前をはだけると、中は裸だった。
それを見た瞬間だった。
「可愛そうです、相手の女の人はきちんと満足出来ているのでしょうか？
エリオ君の半分も無いです。こんな小さなので本当に出来るんでしょうか？」
「キャロ、こんな奴に彼女が居ると思うか？おらんから大丈夫や、
にしても貧相やな？」
「あら～、これは包茎を無理矢理剥いたわね？ダメよ、きちんと手術しないと、
多分上手く剥けた事が嬉しくて見せびらかしてるのね？」
「もう嫌だぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！」

それ以来、彼は二度と姿を現さなかった。

数日後、

「なんや、全裸首つり自殺？所轄に任せとけばええやろ？
こ、この貧相な一物は……」

## VS露出狂（後書き）

さてトドメを刺したのは誰でしょう？

## 毛の抜ける季節（前書き）

暖かい季節になりました。
この時期獣を飼っているお宅は大変でしょう？

## 毛の抜ける季節

今年もこの季節が来たか……

「ザッフィーは今日から当分玄関で寝てな？」

暖かくなったこの頃、八神家にとって大変な季節がやってくる。
ザフィーラの冬毛が抜ける季節、掃除がもの凄く大変だ。
何せ細かい毛がそこら中に張り付いて仕方がない。

普段はモフモフで触り心地が良いのだが……
とにかくこの季節は頂けない。

毛が抜ける時、痒いらしく、足で身体を掻こう物ならもの凄い量の毛が飛び散る。

「お願いだから外でやってくれ」

とは八神家一同からのお達しだったりする。

「俺だって好きでこんな体してるんじゃないんだが……」

とかくこの時期は頂けない様だ。

「冬の間は暖かくて気持ちいいんですけどね？」

そう、冬の間寒いとリィンはザフィーラの毛に埋もれて眠る。
最高の防寒性能を備えた毛皮は暖かくて実に寝心地が良いのだが、
この時期は鬱陶しい事この上なかったりする。

「この抜け毛にもっと利用価値が有ればええのやけどな？」

「それだったら有りますよ、小鳥さんに頼むです」

リィンがどこかへ飛んでいった。
そして小鳥をつれて戻ってきた。
実はリィンのお友達なのだ。

そう、小鳥たちは今が恋の季節、新しい巣を作って卵を産む季節なのだ。
そしてその巣の材料にザフィーラの抜け毛は最高だった。
これなら保温性の高い丈夫な巣が出来る。

「なるほどなぁ？ザッフィーの抜け毛も知らん所で役に立ってるのやなぁ？」

「代わりに畑の害虫駆除をお願いしたですぅ～♪」

こうして持ちつ持たれつ自然と上手く付き合っている八神家なのでした。

## 毛の抜ける季節（後書き）

うちの近辺の雀たちも、我が家のザッフィーの所へ毛をもらいに来ますよ。

## おじゃま虫プレオちゃま？（前書き）

ヴィヴィオとキス位したいと願うアーサー、でもそこには強敵が出現します。

**おじゃま虫プレオちゃま？**

「あの母親達は買い物で居ないか……」

（い、今のうちならヴィヴィオとキス位出来るかも……）

「ヴィヴィオ……す、好きだ……」

そう言ってヴィヴィオの肩を抱き寄せたアーサー

ヴィヴィオも満更ではない様子。

これならキス以上のことも……

ドキドキ、ワクワク

下からその様子をドキドキしながら見上げるのはプレオだった。

やっぱり女の子、こういう事に興味津々だったりする。

「は、恥ずかしくて出来んだろ」

結局何も出来なかったアーサーだった。

「ただいまー」

「あ、ママだ、おかえり～」

「プレオどうだった？お姉ちゃん達は？」

「あのね、お兄ちゃんがお姉ちゃんとキスしようとしてたの」

「む～こ～ど～の～、ちょっと頭冷やそうか？」

この後彼が悲惨なことになったことは言うまでもない。

## おじゃま虫プレオちゃま？（後書き）

子供は舐めてると怖いですよ、何でも喋ってしまわれます。

## それが仕事（前書き）

一見暇人のはやてだが……

## それが仕事

「しかし、はやてちゃんホント暇人してるよね？」

「ま、まあ暇と言えば暇かな？」

「出来る部下達が居てくれるし、今の所バローロ君のおかげで楽が出来るし、
大体作戦司令室って、下から上がってくる作戦書類を審査して決済するのが仕事やもん、
直接大きな作戦を企画するんはミッドが危機的状況になった時だけやし、
強盗なんかの咄嗟の出来事は現場の判断に任せて処理が出来る様になってるから、
基本的にやる事はあらへんのや」

「良いよね、基本的に書類決裁してれば定時に仕事上がれるし」

「いや、それが意外とそうでも無いんや」

「？」

「直属の上司があの人やろ？」

「5時を過ぎると飲み屋に引っ張られて暴れられて、その上に解放して貰えるのは午前様や。
おかげで睡眠時間が全然足りへんのよ」

「私の仕事は5時からやねん」

「ご愁傷様です」

## それが仕事（後書き）

まあ公務員の世界なんてそんな物さ

## 悪戯プレオちゃま（前書き）

ヴァロットの試合を見ていてすっかり「そんなバナナ」に嵌ってしまったプレオちゃま、
この頃悪戯盛りのようです。

**悪戯プレオちゃま**

「ただいま～」（なのは

ツルッッ

「そんなバナナァァァァァァァァァァァァ！」

スッテ～～ン

「痛たたたたた」

「キャハハハハハハ」

「こらぁ！プレオ！何てことするの！」

「ただいま～」（ヴィヴィオ

ツルッッ

「そんなバナナァァァァァァァァァァァァ！」

スッテ～～ン

「痛たたたたた」

「キャハハハハハハ」（プレオ

「あはははははははっ」（なのは

「ね、面白いでしょ？」（プレオ
「何するのよもう」（ヴィヴィオ
「ただいま～」（アーサー
ツルッッ
「そんなバナナァァァァァァァァァァァァ！」
スッテ～～ン
「痛たたたたた」
「キャハハハハハハ」（プレオ
「あはははははははっ」（なのは
「こ、これは嵌るかも？」（ヴィヴィオ
「ゴルァこのガキぃ何しやがる！」（アーサー
「まーまー小さな子供のする事ですから、怒らないの」（なのは
プレオちゃまはすっかりそんなバナナに嵌ってしまった。
そう、ヴァロットが恭也を倒したあの試合以来、
どこからかそんなバナナを手に入れてくる様になった。
しかも、それをドアの内側に仕掛ける事を覚えてしまった。

「何か見てると悪戯の仕方がヴァロット君そっくりだよね？」

どおやらこのお子様、俺の試合を見て悪戯を研究しているらしい。
こうして被害者がどんどん増えていく。
フェイトさんにナカジマ家一同は暫くそんなバナナの餌食になるのだった。

## 悪戯プレオちゃま（後書き）

お子様って怖いです。

## Ｓｃｈｏｏｌ麻雀第一局（前書き）

今日はみんなで麻雀大会

## Ｓｃｈｏｏｌ麻雀第一局

第一局

東家：士郎（親）　南家：なのは　西家：月花　北家：ビリー

（ふっ、カモはビリーだ）

（くそう、読まれてたまるか）

ビリー、サングラスを取り出す。

「積み込みは無しな？」（びりー

（そう来たか？積み込み無しとか言っといて、

一番積み込みが上手いのはビリーだし、どう攻める？）（月花

なのはもサングラスを取り出す。

（この人達勝負事に容赦しないから厄介よね？どんな汚い手でも使うし）

７巡目

（よし、白か發が揃えばリーチだわ）（なのは

二ピンを切る。

「ロンだ！」（ビリー

「えっ？」

「あ、わりぃ、チョンボだ」（ビリー

（こ、この、わざとチョンボで役満潰しやがった）（なのは

（ナイス！ビリー）（月花、士郎

## Ｓｃｈｏｏｌ麻雀第一局（後書き）

相手の手が読めた時こういう潰し方もありますね？

## Ｓｃｈｏｏｌ麻雀第二局（前書き）

と言う訳で麻雀大会の続きです。

## Ｓｃｈｏｏｌ麻雀第二局

第二局

東家：バローロ（親）　南家：ロサード　西家：ヴァロット　北家：アスティ

（ふっ、カモはバローロか？）（ヴァロット

一巡目

「ロン！」（ロサード

「な、何〜？」（バローロ

「人和（レンホウ）役満ですか？」（アスティ

「しまった、こいつの引きの強さを忘れていた」（ヴァロット

結局ロサードの一人勝ち

自分が親の時は安い手を振り込むくせに、人からは役満で上がるロサードだった。

「これで当分バイトしなくても済むかな？てへっ」（ロサード

「てへって言うな！」（バローロ

## Ｓｃｈｏｏｌ麻雀第二局（後書き）

嫌ですよね？こう言うやたらと引きの強いのが居ると……

## Ｓｃｈｏｏｌ麻雀第三局（前書き）

まだ続く麻雀大会

## Ｓｃｈｏｏｌ麻雀第三局

第３局

東家：レヴ（親）　南家：スクラティ　西家：ヴィーニャ　北家：アスティ

「あ、それロンです」（アスティ

「かぁ～またやられた」（スクラティ

「可笑しいわね？さっきからみんなアスティに振り込んでるのよね？」（レヴ

「何かアスティ付きまくってない？」（ヴィーニャ

「ちょっと待って、その捨て牌可笑しくない？何でアスティの捨て牌をみんなで見逃してるの？３回はロン出来てるよ？」（レヴ

「可笑しいなぁ、何でだろう？」（スクラティ

「アスティ、リーチって言ってる？」（ヴィーニャ

「言ってるよ？何で？」（アスティ

誰も気付いていなかった。

アスティはやばくなると浦霞を使っている事に。

## Ｓｃｈｏｏｌ麻雀第三局（後書き）

ごめんなさい！咲からパクりました！

## Ｓｃｈｏｏｌ麻雀第四局（前書き）

取り敢えず今回はこれで打ち止めです。

# Ｓｃｈｏｏｌ麻雀第四局

第四局

東家：なのは（親）　南家：フェイト　西家：はやて　北家：リィン

八巡目、

（な、何？この凍り付く様な感覚は？）（フェイト

（もうすぐです、もうすぐ海底楼月ですぅ）（りぃん

（ここまでか？これはやられたかも？）（なのは

（まだや、まだ諦めたらあかん！）（はやて

九巡目、

「来たぁ！カン！」

「も一つカン！」

「おまけにカン！」

「ツモ！」

「嶺上開花（リンシャンカイホウ）、跳ねとるで？」

「はやてちゃん、中の人つながりでそれはやらないで欲しいの？」

（なのは

## Ｓｃｈｏｏｌ麻雀第四局（後書き）

すいません、また咲からパクってしまいました。
まあ、当然の落ちですよね？

## 姉妹（前書き）

俺達は結婚の承諾を貰う為、その話を切り出した。
しかし……

## 姉妹

「アスティ、出来ちゃったってどう言う事？
そんなに節操のない子だったかしら？」

「お姉ちゃんこそそんなにお金の使い方荒かった？
そのピアスとかネックレスとか何？」

一瞬姉妹の間でぱちっと火花が飛ぶ。
俺も親父さんもその険悪な空気に一瞬たじろぐ、

ここはスプマンテ鉱業の社長室、今二人は大変な事になっている。
いや俺達はその空気が怖かった。

お姉さんの口撃

「財産はあげないわよ？」

アスティの反撃

「お姉ちゃんこそ売れ残らないでよね？」

今度はバチッっと強烈な火花が飛んだ。

（怖ぇぇ、お金が絡むとここまで人が変わるんだ？）

にこやかにお茶をすすりながら、途轍もなく恐ろしい空気を作り出す姉妹、
結局お姉さんは財産を守りきった。

俺は思った、お父さんはただの財産としか見られていないと……

## 姉妹（後書き）

お姉さん意外に怖かったです。

**バローロ熱く語る。（前書き）**

すいません、昨日バローロのうんちくをうざかったのでカットしてしまいました。
こちらに乗せておきます。

**バローロ熱く語る。**

一曲聞いてみようぜ？

「ジプシーキングス？」

（★ｍｕｓｉｃ★　ｈｔｔｐ：／／ｗｗｗ．ｙｏｕｔｕｂｅ．ｃｏｍ／ｗａｔｃｈ？ｖ＝ＶｃＯｖｑｐＯＷＣｗＭ＆ａｍｐ；ＮＲ＝１）

「何かスゲー渋い曲」

「曲以上にテクニックが凄い、これは簡単には引きこなせないぞ？」

「何がそんなに凄いんだ？」

「まずギターが違う、普通のアコースティックやフォークじゃあない、
フラメンコギターなんだ。これは取り扱いが特に難しい。
それにこれは二人で演奏している曲だ。
信じられない位二人の息が合っている。
それに片方は７弦のギターを使って居るんだ。
普通７弦も有ったら難しくて使いこなせない、
半端無いギタリストだ！こいつら半端なく凄い！」

「聞いただけでそんな事が分かるのか？」

「ああ、分かる、この凄さは俺の常識以上の物だ。
一人がリードギターをもう一人がヴォーカルギターを担当している。
しかも、途中に入っているドラムの様な音はギターの胴を掌で叩い

て居るんだ。
ドラムじゃあない、しかも叩いた瞬間から次の音まで行く速さが尋常じゃあない
それで居て正確無比に次の音を出している。
俺でもまだここまでのテクニックはない、やっぱり世界は広いな？
俺もいつかこいつらを越える弾き手になれたらと思う」

「そんな物なのか？俺にはよく分からん」

バローロは音楽の事ギターの事に関しては熱く語る。
まあ、俺はうんちく言われても音楽の事はよく分からんが、
ミッドチルダでもベスト１０には確実に入ってくるバローロがここまで言うんだ、
相当凄いテクニックの持ち主だろう？

## バローロ熱く語る。（後書き）

どうもギターの事になると熱くなってしまうバローロ、
まあその気持ちは分からんでも無いが……

## 結婚式！（前書き）

本編で書ききれなかった部分をここに上げておきます。

## 結婚式！

まあしかし、バローロの奴がこんな事を考えていたとは思わなかったな？

「作戦が作戦だけに、お礼参りシリーズの方が準備出来なかったぜ？」

悔し紛れにそう誤魔化していたバローロ、本当はあれで一杯一杯の作戦だったくせに。

結婚式はソリスとスクラティのアメージンググレイスから始まった。

司会進行は生徒会に任せ、バンドに徹するバローロ達、

まさかここまで準備していようとは？

主賓席から見渡すと、会場の一角に変な光景が見える？

「何なんだ？あの酒瓶の山は？」

（あれはやばいでぇ？レティ本部長暴れる気や？）

（どう言う事ですか？はやてさん？）

（あの人はな、酒乱大魔王なんよ、もう飲んだら誰にも止められへんやばい人や？

止められるというか、潰せるのは私ら3人だけや、でも今日は主賓やから手も足も出せへん、

あの人の独壇場や）

（久々にあれが出るのか？何か嫌な予感するよね？）

（まあ、最初に犠牲になるのはおじさん達だから良いよね？
多分、ここに到達するまでにお酒無くなりそうだし？）

（私は良くないよフェイトちゃん、お父さん可哀想）

「スバルに続いてなのはさんもフェイトさんも八神隊長まで……
エリオにキャロも２週間後には結婚だし……何で私だけ売れ残るの？
誰か嫁にもろてぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇ！」（ティアナ

そして式は進んでいく、４組合同のケーキ入刀とか、
スライドショーの最後に入っていたのは、あの社交界の夜、
フェイトさんやはやてさんが上に上がっていく様子。
「この続きは、ヒ・ミ・ツ」なんてテロップが付けてある。
完全にやられた。

そしてブーケトスへ、投げられたブーケを奪い合うのはティア先生に、
ギンガ先生、レヴ他何人かの女生徒たち、激しい奪い合いの末にブーケの一つはソリスの手元に飛んできた。
思わず、ブーケを手にしてにっこりのソリス。

残ったブーケはギンガ先生、レヴ、ヴィレが手に入れていた。

「ううやっぱり売れ残る運命？」

ティア先生残念！

ブーケトスが終わった頃、とうとう酒乱大魔王が動き出した。

「まずは士郎さん、おめでとうございます。その幸せをしっかり噛み締めろやぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！」

ズボッ

口に酒瓶を突っ込むとそのまま流し込む。

士郎先生、散る！

桃子さんも、美由希さんも、リンディ提督も、次々と潰されていく。

そして会場は修羅場と化した。

「誰だよ？あの人呼んだのは？」

「うぁぁぁぁぁぁぁぁ！来たぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！」

会場で悲鳴が上がる。

でも抵抗する事は許されない、この人は本部長だ。

こうして、結婚式は酒乱大魔王に叩き潰される様にして終わった。

## 結婚式！（後書き）

レティ本部長、いい加減にしましょう！

## 八神本部長！？（前書き）

あれから5年の時が過ぎ、それぞれに出世するはやて達。

## 八神本部長！？

あの結婚式から5年の時が過ぎた。

この4月に総局長、ミッドチルダ地上本部長共に勇退、その後任に大抜擢されたのは、クロノ提督が総局長に、八神はやて少将は中将に出世して地上本部長になった。

管理局はこれから先もっと大きく変わるだろう？あの人達なら、きっと良い方向へ導いてくれる。

と思っていたのだが……

「いやぁぁぁぁぁぁぁ！」

また本部長室から女子職員が逃げ出してくる。

「主！いい加減にして下さい！いい歳こいていつまでもセクハラしてるんじゃありません！」

そう言って本部長をどつき回すのはシグナム作戦指令室長。もういつもの光景だ。

地上本部広しと言えど、本部長をどつけるのはこの人以外にいない。まあ、これが八神はやてカラーだった。

「こんなんで良いのかよ？」

とっても不安な地上本部職員達、それでも仕事は回っていく、

いや、とっても仕事の出来る人なので、これまでより仕事の回転は速くなった。
その代わり、非常にきつい仕事を強いられる様になった。
「嘘？書類の期限三日後ぉぉぉぉぉぉぉ？」
仕事も凄いがセクハラも凄い八神本部長だった。

**八神本部長！？（後書き）**

本部長！いい加減にして下さい。

## 八神本部長！？（前書き）

本部長のご機嫌が悪そうだ！やばいぞ？

## 八神本部長！？

ミッドチルダには怒らせては成らない物が三つある。

一つは八神はやて地上本部長、彼女がキレたらミッドチルダは消滅すると言われている。

二つ目はヴァンサン・ロシェット部隊長、次元世界最強を誇る化け物、怒らせれば確実な死が待っている。

三つ目は高町なのはスクール校長、彼女が一声かけたなら一騎当千の軍団が集結し、

何処の誰であろうと確実に殲滅する。

そんなやばい連中が集う世界、それがミッドチルダだ。

そして今日も恐怖に耐える職員達。

「おはようございます！八神本部長！」

挨拶されても難しい顔で執務室に向かうはやて、どうも虫の居所が悪そうだ。

「おい、見たかよ？何か凄く機嫌が悪そうだったぞ？」

「不味いなぁ、あの人怒らせたら俺達じゃあ止めようがないし、あの人がキレたらここにいる全員漏れなく消滅だし、やばすぎだよ」

こう言う時、恐怖と緊張に支配される地上本部、

「どうしたんだい？はやて」

声をかけたのはヴェロッサ・A・八神　事務次官（出世して地上本部の事務次官になりました）

「いや、この三日出ぇへんのよ、もう苦しくて、それにあの針治療や足つぼマッサージとか、
もの凄く不味い薬とか嫌やし、どうした物かなぁ～って困ってるのよ、
シャマルに話したら確実にそうなるし……」

ただの便秘だった。

## 八神本部長！？（後書き）

シャマル先生！出番だ！

## 八神本部長！？（前書き）

働きの悪い部下はこうやっていびります。

## 八神本部長！？

「ん？期限を過ぎても出てきてない書類があるなぁ？」

その頃、某部署にて、

「ふっ、人手不足って言っておけばどうとでもなるのさ」

そう言って、ちっとも仕事をしない某課長。

「おや？人手不足の割には随分暇そうやな？」

「ほ、本部長ォォォォォォォォォ！な、何故ここにぃぃぃぃぃぃぃぃぃぃぃ！」

「緊急査察や、ちょっと付き合って貰うで？」

彼は思った、これから小一時間説教されると……

本部長室にて

そこに準備されていたのは雀卓、

「暇なら付き合って貰うで？」

シグナム、はやて、ヴェロッサと課長、このメンツで打ち始める。

1時間後……

「あ、あのう、もう勘弁して欲しいんですが……」

「ダメや、暇そうにしてるからこのまま1日付き合って貰うで？
それに負け分はきっちり払って貰うで？」

そう、これが地上本部名物説教麻雀、嫌な小言を聞きながら延々麻雀を打ち続ける。
おまけに、多大な借金までこさえさせられる。
しかも降りる事は絶対に許されない。
しかも給料日の直後か、給料日三日前にこれをやられる。
呼ばれた者は決まって多大な借金を作り、地獄を見る。
それ以来彼らは人が変わった様に仕事をするという、
地上本部はもう仕事が滞るようなことは殆ど無いという。

地上本部の管理職にとって、雀卓へのお誘いは地獄への片道切符になった。

## 八神本部長！？（後書き）

八神本部長！あんたは鬼や！

## いい大人の会話（前書き）

これから、本編で書けなかったエピソードを少しずつ書いていこうと思います。

今回は、あの同窓会の続きです。

## いい大人の会話

４月１４日、この日俺達は同窓会を開く事にしている。
明日は合同慰霊祭、ハウメの命日でもある。

「ん？もう８時か？」

子供達がもうおねむだった。

「悪ぃ、子供達がおねむなんでちょっと家まで送ってくるわ」

そう、４人とも既に夢心地だった。

「アスティ、悪いけど今夜は遅くなりそうだわ、先に寝ててくれ」

「悪いけど、私も送って貰えると有り難いんだけど」（なのは

「良いですよ、どうせ距離なんて関係有りませんし」

こうして俺は校長先生とアスティ、それぞれの子供達を家まで送り届ける。
ソリスはキャロ先生と帰っていった。

因みに俺は、結婚式の後買い占めた土地に家を建てた。
まだ開発されていなかった為、格安の値段で土地を手に入れ、
かなりの広さを持つ庭と、２００～３００人規模のパーティーが開ける位の屋敷を建てた。
今はアスティと子供達、住み込みのメイドさんが３人という状況だ。

立地としては門のすぐ前に地下鉄の駅、西隣に小学校が出来始めていて、
すぐ裏に大型スーパー、東隣に中学校が建てられる予定だ。
アスティと子供達にとっては凄く良い環境、
８６番街までバイクで１０分、スクールまでバイクで２０分、
通勤するにも楽で良い。

まあ、ご近所じゃあ白亜の豪邸なんて呼ばれている。

午後９時、とあるバーにて

「もう５年か……早いな」

今ここで飲んでいるのは、俺にバローロ、ロサード、ヴィーニャ、エリカ、
スクラティ、ピノ、レヴそして何故かネロにクロまで居る。

「そうだね～もう５年、あの事件からは６年経つんだね？」（エリカ

「ああ、でもあの事件から俺達の心の中はちっとも進んでないのじゃないか？」（バローロ

「いや、俺は前に進んだぞ、だからアスティと結婚したんだよ」

「でもさぁ、なんでアスティだった訳？最初はエリカの事狙ってなかった？」（スクラティ

「ああ、最初は俺もハウメも他に１６人ぐらいエリカの事狙ってたんだ」

「エリカモテモテじゃん？」（ピノ

ピーチのカクテルを啜りながらピノが茶化す。
なんだかばつが悪そうなエリカ、やっぱりあのことを吹っ切れていない様だ。

「でもなんでアスティに乗り換えた訳？」

「最初はさあ、エリカに告白して付き合おうかと思ってたんだ。
でも、なんだかハウメに申し訳なくてな、なんか俺が一人裏切ったみたいで、
それがたまらなく嫌だった。
それに俺はあの頃ハウメを死なせてしまった後悔から修羅になろうとしていた。
多分、修羅になっていたらクラナガンは地獄になっていただろう？
どれだけ殺していたか何をやらかすかの全く分からない状況だった。
でも、それを救ってくれたのはアスティだった。
傷付いた俺の心を癒してくれたのはアスティだったんだ。
あの時気が付いたのさ、俺はアスティと結ばれる運命にあるってさ」

「確かにあの頃って怖かったよね？みんな怖くて近付く気になれなかったもん」（エリカ

「まあ、あれだけ殺気の塊じゃあ怖くて近付ける人はいないでしょ」（レヴ

「でもアスティはそれを物ともしなかったぞ？それだけ勇気があったのかな？
それとも俺に惚れてたからそれだけの勇気が出せたのかもな？」

「まだのろけるかこいつは？」（スクラティ

カランと音を立ててグラスの氷が動く、そこで俺はまたウィスキーを一口飲み込む。

「そう言えばエリカもバローロもまだ浮いた話の一つもないな？」

「まあ、俺は仕事が忙しすぎてな？なかなか遊びに行く事も叶わん」（バローロ

「私は、教導隊と掛け持ちする様になってから、誰も私に近付いて来てくれないのよね？」（エリカ

「てか、おまえ怖すぎだろう？２代目エースオブエースを襲名してから良い噂を聞かないぞ？
研修生を全員病院送りにしたとか、教導官全員と模擬戦やって一人残らずボコったとか、
そう言う噂が随分聞こえて居るんだが？」

「あ、あれはね？あの子達が弱すぎるからいけないの、
スクール出身の後輩はあの程度じゃビクともしないのに、
ちょっと砲撃しただけで吹っ飛んじゃうし、耐久力無さ過ぎだし、
それに教導隊も、校長先生達が抜けてから随分質が落ちたみたいね？
昔は私ぐらいの教導をしてたって聞いてるから？」

　それはそうだろう？高町なのはの名前を聞いたら、
それだけで逃げ出す生徒が続出したと言う話が残っているほどだ。
見事に校長先生の跡を継いだな？

「俺はまだ吹っ切れていないかも知れん、
仕事に打ち込んでいると周りが怖がって寄り付かん、
そんなに俺が怖いかな？ってよく思うんだが……」（バローロ

「おまえも早く見つけろよ？愛してくれる人が見つかればきっと変わるぜ？」

「しっかしヴァロットは変わったよね？もう親父入ってるし、
そのちょい悪系の見た目がまた良いって言う評判らしいけど？」（ロサード

「そうか？ちょっと口髭生やしてみただけなんだが？」

「私は結構好みかも？あの頃私もヴァロットが好きだったから？」（レヴ

「そ、そうなのか？」

「実はさあ、私とスクラティはあの時失恋したんだよね、
アスティにヴァロットを持って行かれた時は、心底悔しかったし、
ちょっと嫉妬した。でも今は良い思い出だよ」（レヴ

「そう言えばまだミュスカと付き合ってるんだって？」

「うん、そろそろ婚約しようかなって考えてる」（レヴ

「それが良いさ、早い事婚約しちまえ！」

「結婚式は俺に任せろ、すぐにでも手配してやるぞ？」（バローロ

やっぱりみんな変わってるじゃん？
少しずつだけど、みんな大人になっている。

「そう言えばピノとヴィーニャはお見合いするんだって？」

「えっ、その話どこから漏れたの？周りには内緒にしてたのに」

「士郎先生に決まってんじゃん、御神一族の誰かだとは聞いてるけどな？
でも大変だよな？今スクールと１０８部隊の掛け持ちなんだろ？」

そう、あれから2年してティアナ先生とヴァイスさんが結婚、
半年後子供が出来た事が分かり、ティアナ先生は産休に入った。
今はまだ育児休暇中である。
だからヴィーニャとレヴが交代でスクールへ教えに来ている。
結構やりくりが大変な様だ。

「そう言えばネロも結婚するんだよな？」

「よくあのマッドと結婚する気になったな？」

「そう言うなよ、まあフィノもあの悪い癖さえなければ結構いい女だぞ？
俺には勿体ないぐらいにな？」

それから4ヶ月後、ネロはフィノと結婚した。
あれから5年、俺達は随分変わったと思う。
もういい大人だ、そして部下を持ち、誰もが敬礼される立場になっていたりする。

## いい大人の会話（後書き）

次回はティアナ先生とヴァイスさんの結婚秘話、＋α

## ティアナの結婚（前書き）

「そんな事無いよ、相手の人が理解してくれれば不幸に何て成らない、
少なくとも私だったら、そんな不幸は絶対にさせない！」

「ふっ、何でだろうな？おまえに話すと心が軽くなる気がする。着いたぜ？」

話をしながらバイクを走らせていたらいつの間にかマンションの前まで来ていた。

## ティアナの結婚

あの結婚式から一ヶ月、新たに４組合同の結婚式が行われた。
そうナカジマ家の結婚式だった。
ギンガさん、ノーヴェさん、ディエチさん、ウェンディさん、
それぞれあの合コンから付き合い始めた相手と結ばれたのだ。

「みんな良いわよね、何で私だけ売れ残るんだか？
おまけに今月もピンチじゃない！誰よ？ご祝儀なんて風習を持ち込んだのは？」

そう、ティアナはご祝儀地獄に堕ちていた。
でも、まだ同僚とか直属の上司とか、
そんなに高額のご祝儀を出さなくても良かった分彼女はマシだった。

「誰よ？こんなに高額ご祝儀を出させないと行けなくしたのは？」

レティ本部長、深刻なご祝儀地獄に経済破綻寸前だったりする。
これで２ヶ月連続で給料がぶっ飛んだ。
蓄えがなかったらどうなっていた事か？

「うう、ますます売れ残っていく……」（ティアナ

そんなティアナを見るに見かねたのは、なのはだった。

「ねえ？フェイトちゃん、実はティアナの事なんだけど……」

「それだったら、はやてに話してみようよ？

もしかしたらいい人見つけてくれるかも知れないよ？」

「……と言う訳なの、いい人紹介して貰えると有り難いな？」

「それだったら一人居るやろ？旧六課で売れ残っとる男が」

「ああ？なるほどね？じゃあ、お見合いセッティングしてみるか？」

それは5月のある日だった。

「なんすか？はやて室長」

突然呼び出されたヴァイスはそこでお見合いを受けろと言われる。

「お断りします、見ず知らずの女生徒いきなり付き合えと言われても、

俺にだって選ぶ権利って物があります」

「まあ、そう言わんとな？それに見ず知らずの女性ちゃうで？」

「って事は俺の知っている誰かですか？」

「まあ、そう言うこっちゃ」

「えっ？お見合いですか？」

「そう、ティアナ売れ残りたくないって言ってたでしょ？だから」

売れ残りたくなかった彼女はそれを受ける事にした。

数日後、
純和風の料亭に呼ばれたティアナ、仲人はなのはとユーノが付いた。
そこへ入ってきたのは……

「何でヴァイスさんがここに？」

「それはこっちの台詞だ」

ヴァイスの仲人に就いていたのは八神夫妻、

「もしかして俺達をからかって居るんですか？」

「違うて、二人とも売れ残っとるやろ？
だからそろそろ売れ残り同士一緒に成りなさい言うてるんや」

「まあ、そゆこと、それにお互い知っているどうしだし後は二人に任せるわね？」

と言って出て行ってしまう4人、残された二人は困った。
確かに知っている同士、それ故に話す事が無くて困ってしまう。

「こんなのふざけ過ぎている！帰る！」

ヴァイスが出て行こうとするのを引き留めたのはティアナだった。

「そんな、ヴァイスさんに先に出て行かれたら私が振られたみたいじゃない？
女の子に恥を掻かせないでよ！」

泣きそうなティアナに困ってしまうヴァイス、
こういう場合どうしたらいいか分からない。
お互いどうして良いか分からないまま時間だけが過ぎていく、
そうしている内になのは達が戻ってきた。

「どおやったかな？少しは話せたかぁ？まだ二人きりの時間は充分にあるで？」

そう言って隣の部屋の襖を開けるはやて、そこには布団が一つに枕が二つ……

（（何考えてるんだぁぁぁぁぁぁぁぁぁこいつらはぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！））

二人とも心の中でそう叫んだ。
この４人に監視されている中でやれという事か？
そんな恥ずかしい事は死んでも出来ない、と言うかやりたくない。
流石にヴァイスが怒り始めた。

「幾ら何でも悪ふざけにも程がある！」

怒って一歩踏み出したその瞬間、何かがぽろりと落ちた。
盗聴器だった。
いつの間にか盗聴器まで付けられていた。

それだけじゃない、ヴァイスは当たりを見渡すと何かを空中から叩き落とした。
超小型オートスフィアだった、光学迷彩付きの奴だ。

「頭来た！帰るぞ！」

そう言うとティアナの手を引いて料亭を後にした。
ティアナをそこに残すという事は彼女を傷付ける事になる。
でもこうやって連れ出せばそれは彼女を傷付けた事には成らず、
付き合うとも付き合わないとも取れる曖昧な答えのままその場を逃げられる一番良い方法だった。

バイクの後ろに彼女を乗せてマンションに向かって走り出す。

（うっ、背中に大きな柔らかい物が当たる）

改めて感じる女の魅力、出来る事なら自分のモノにしてしまいたい。
でも彼はそれを躊躇う理由があった。

「ねえ、何でいつまでも独り身で居ようとするの？何で他の女の子と付き合わないの？」

ティアナは、核心を突く質問をしていた。
答えないヴァイス、答えられようが無かった。

「済まない、答えられないんだ、機密事項が多すぎる」

「何で機密事項なの？人に隠さなければ行けないようなことがあるの？」

「そう言う役職なんだ、察して欲しい」

「察して欲しいって何よ？ただのヘリパイ以外に何があるの？」

「クラナガン襲撃事件を思い出してくれ、俺もあの現場で戦ったんだ」

そう、彼は確かに現場にいた、しかも最前線に。
ヘリからの狙撃、しかも正確無比な実弾射撃、あれをやったのはヴァイスだった。

「もしかして、あの実弾銃を使うジェノサイダーって……」

ティアナも理解した。
彼は、その機密を誰にも知られない様に、恋人も家族も作らず、ずっと孤独に生きていこうとしていたのだ。
そしてこの機密を知っているのは、（表向きは）地上本部長、作戦指令室長、
事務次官、スペシャルフォース部隊長だけである。

ジェノサイダーの存在はそれ自体機密事項なのだ。
本当の事を言えば、ジェノサイダーの創設に係わった人物はその秘密を知っていたりするが、
絶対に他人に話しては成らない機密だったりする。

「あちゃ～完全に怒らせてしもうた、どうしよう？」

「そうでもないみたいよ、ちゃんとティアナの手を引いていったでしょ？
多分脈はあると思うな？まあくっつくかどうかはティアナの頑張り次第って所かな？」

ヴァイスがこれまでひた隠しにしてきた事、それは地上本部子飼いの殺し屋、
ジェノサイダーという役職をしているからだった。
機密を守る為、その情報を漏らさない為、心を閉ざしていたヴァイス、
でも、何故かティアナには話してしまった。
話しても良い様な気がした。

「ごめんなさい、私何も知らずに……」

「いや、別に謝る事じゃない、でも機密は機密だ。
もうこの事は誰にも喋らないで欲しい」

「でも、どんな機密があったって、どんな役職だって関係ないよ、
何故そんなに一人で居ようとするの？もっと人と付き合ったって良いのに」

「俺は……殺すのが仕事なんだ、そんな殺し屋が人の親に成って良いはずがない、
女と付き合えば、必ずその人を愛してしまう、出来た子供を不幸にするだけだ。
俺はそう言うのが嫌なんだよ、自分が居るだけで不幸になる人間が居る事自体嫌なんだ」

「そんな事無いよ、相手の人が理解してくれれば不幸に何て成らない、
少なくとも私だったら、そんな不幸は絶対にさせない！」

「ふっ、何でだろうな？おまえに話すと心が軽くなる気がする。着いたぜ？」

話をしながらバイクを走らせていたらいつの間にかマンションの前まで来ていた。

「ヴァイスさん、今日はありがとう」

そう言ってティアナはヴァイスの唇を奪った。

その後、ティアナはバイクを買った。

「なるほど、地球製のバイクの方がこっちのバイクよりメンテが楽だわ」

そう、地球のバイクはメンテナンス性と耐久性に優れているのだ。買ったのはＨｏｎｎｄａ　ＤＮ－０１　排気量は６８０ｃｃとそんなに大きくない物の、充分に走るバイクだった。

それからヴァイスと二人ツーリングデートをするティアナの姿が見られる様になった。

「うん、二人とも上手くやって居るみたいね？」

そして2年後二人はゴールインした。

どおやらティアナの努力が上手く行ったらしい。

その1年後、彼女は男の子を出産する。

## ティアナの結婚（後書き）

その後、ヴァイスさんは出世し、地上本部刑事課スワット隊の現場隊長になったそうだ。

## 管理局改革１（前書き）

はやてさん、本気で改革に着手しました。

## 管理局改革１

八神はやてが地上本部長になって1年が過ぎる頃、
彼女は本格的に管理局改革に乗り出した。

まず打ち出したのが、１５才未満の子供を採用しては成らない、
現場に投入しては成らないという物で、その考えはすぐに本局も採用し、
ここに子供が働かなくても良い世界が実現した。

また、それまで現場で働いていた子供達は、士官学校やスクールに転入させられ、
もう一度鍛え直す事から始める事となった。

この法案を通すまでに1年、実際にそれが実現するまでに2年の時間が掛かっている。
それでも、管理局改革は一歩ずつ前に進む。

はやては語る。

「多分、私が引退するまでに全ての改革を実現するのは難しいかも知れへん、
でも、それが実現するだけの道筋を付ける事は出来る」

彼女は、管理局改革にその人生の全てを賭けて行く事になる。
そんな彼女の功績は途轍もなく大きかった。

彼女は改革の3本柱として子供が働かなくても良い世界を、
人件費の０．５％削減、スクールの増設を打ち出していたが、

予算の関係上、スクールの増設は当分難しい様だ。

人件費の削減はかなり上手く行っている。
今までボーナスは、夏と冬の2回支給だった物を年度末を加えた3回支給にした。
代わりに、支給率を見直した。
今までは夏冬3ヶ月分ずつ、合計6ヶ月分だったのを、
夏冬2．5ヶ月分合計5ヶ月分とし、年度末を1ヶ月分とした。
ただし、年度末の1ヶ月分の内の半分を査定制にし、
オフィス仕事の場合、書類が滞ったりすると0．5ヶ月分カットされる。
しっかり仕事をしていれば問題はないのだが、怠ければボーナスカットである。
武装隊はもっと深刻だった。
犯罪が発生しなければ満額支給。
犯罪が発生してもきちんと解決出来れば満額支給、
犯罪者を逃してしまうと連帯責任でその部隊全員カット、
逆に犯罪者を捕らえた場合、その犯罪のランクに応じてボーナス上乗せだった。
しかも今まで賞金首を捕らえても、局員の場合は賞金が貰えず、
ボーナスに僅かな上乗せがあるだけだった物が、これからは賞金満額支給となった。

この改革は非常に上手く行った。
まず、現場のやる気が全く変わった。
カットされるのは嫌だし、犯人を捕まえればボーナス上乗せの上に賞金まで貰える。
最初は給与改革に反対していた現場だが、貰える事が分かれば俄然やる気が違う。
犯罪摘発率が一気に上がり、犯罪発生率は激減していった。

しかも、割とカットされる部署が多い為、実質的人件費の０．５％カットは実現したのである。

ただ、現場では度々犯罪者の取り合いが起きているという。犯罪者は、もう局員達にとって獲物以外の何者でもなかった。

## 管理局改革１（後書き）

とうとう、公務員改革に着手しました。
これで管理局はまともな役所になっていくでしょう？

## 管理局改革２（前書き）

更に人件費を切りつめようとするはやて、
今までその地位に胡座を掻いていた局員達は更なる地獄を見る事になる。

## 管理局改革２

「クロノ君、実は人件費を後１～２％カットしたいんよ、
浮いたお金で第２～第５スクールを作る為に」

「でもそれは難しいだろう？この前のボーナスカット査定制だって、
かなりの不評だったじゃないか？」

「文句をいっとるのは仕事が出来へん連中だけや、
実際仕事が出来る人間はもの凄く稼いでるし」

「で？どんな方法なんだ？カットするのは？」

「簡単や、夏と冬の２．５ヶ月ずつの内０．５ヶ月分ずつを査定制
にする。
査定期間が１年だったのを４ヶ月にして、年３回の査定にする。
後はこの前のやり方と同じや」

「おいおい、随分怖い事をするなぁ、最大１．５ヶ月分カットだぞ？
もし全員カットされたら局全体で２０％近い人件費が削減される事
になる」

「まあ、それは無いわぁ、稼いでる人は結構稼いでるから、
それに、稼いだお金で客観的に判断すれば人事も楽になる、
出来る人ほど上に行くし、カットされ続ける人は降格やから、
これからは仕事が楽に回る様になる」

「しかしまあ、良くそんな事を考え付いた物だ？」

「あ、これ、アリサちゃんに教えてもらったんや、
バニングスはもっとカット率も上乗せ率も大きくして査定してるて、
民間はそれだけ厳しいんや」

## 管理局改革２（後書き）

日本政府にも導入して貰いたいですね？
これをやったら、管総理の査定はどうなる事か？

## ミッドチルダ移住（前書き）

放射能汚染の為日本にいるのは危険と判断した士郎、一族全員の移住を決定する。

## ミッドチルダ移住

それは、高町士郎が定年退職する直前の事だった。
彼は地上本部の本部長室を訪れていた。

「頼むよレティさん、頼れるのはここかバニングスぐらいしかないんだが、
みんなアメリカやヨーロッパよりはこっちの方がまだマシだろうって言う意見なんだ」

「なるほど事情は分かりました。でも何故クラナガン市内ではなく、そんな片田舎に？」

「保守的な連中だからな？
それに元住んでいた環境に出来るだけ近い方が彼らにとっても暮らしやすいらしい」

「でもそれを許可する代わりにこちらとしても見返りを頂きたい」

「ああ分かっている、今後はバニングスだけでなく管理局にも御神の剣士を供給する」

士郎はレティと裏取引を約束した。
その裏には止むに止まれぬ事情があった。

あの忌まわしい原発事故だった。
政府の発表する数値に疑問を抱いた士郎は、
バニングスの下請け会社に正確な数値の測定を依頼していた。

その数値は政府の発表とは桁違いな物で、とても人間の住んでいて良い物ではなかった。
汚染の度合いが高すぎるのだ。
そして、友人の大学教授の見解では、暴走した原子炉は最早人類では止める事は出来ない、
このまま行けば水蒸気爆発を繰り返して、最後には核爆発を起こすだろうとの事だった。

「俺も孫達が心配だしな？」

士郎はそうレティに言い訳していた。

このままでは御神の里が危ない、新たな後継者を育てる為にも、里の人間全てどこかへ移住させる必要があった。

それだけでなく、海鳴りの街でも相当な放射能が降っていた。
あちこちにホットスポットが出来、孫達をここに置いておくには不味い環境だった。

士郎は月村家および全御神一族、アリサバニングス、そしてハラオウン家を交えて話し合った。
その結果ミッドチルダ移住を決定した。

## ミッドチルダ移住（後書き）

そして彼らは日本から居なくなった。

## 弊害（前書き）

召喚士の新しい使い方を考え付いた局員達、
何でこういう事にだけ知恵が回るのでしょう？

## 弊害

それは、管理局改革と相反する形で一つの問題が進行しつつあった。
スバルのお陰で召喚士の地位は向上した。
いや、今はどの部署にも必ず一人欲しい人材である。
現場で最も使える魔導士は召喚士、今はそう言われるまでになってきた。

地上本部や局内でも昔現場で鳴らした召喚士は多く働いている。
しかし、オフィス内に召喚士、これに目を付けた連中が居た。

「なあ、頼むよ」

彼らは、何とか召喚士と仲良くなろうとする。
そう、彼らは毎朝の通勤を召喚して貰う事で楽をしようと言うのだ。

このやり方は非常に上手く行った。
あの嫌なラッシュに揉まれず、一瞬で職場に出てこられる。
楽で良い、でもそれは一ヶ月もしないうちに発生した。

「課長、誰も出勤していません！」

「なにぃ～？」

そう、召喚士が遅刻したり、休みだったりするとこうなる。
事前のチェックしておかなければ纏めて遅刻だったりする。

「おまえら、定期代返納しろ！」（課長

「全員定期代カットや！」（はやて

「何で俺まで？」（課長

召喚士がいれば途轍もなく便利なのだが、こういう使い方をしては行けない。

## 弊害（後書き）

ったく、サボる事だけは得意な連中やね？

## はやて振り返る（前書き）

はやてが強引に推し進める改革にストップが掛かった。
そしてはやては初めて自分の改革を振り返る。

## はやて振り返る

八神はやてに取ってどうしても実現させたい改革が通らなかった事がある。
それは第2～第5スクールを作る事、それは管理局の幹部の殆どに反対される事になった。

少しでも早く改革を実現したいはやてに対してクロノですら反対に回った。

「これ以上早い改革は、世界がそのスピードに付いてこられなくなる」

「急激な改革は世界全体に歪みをもたらす」

「スクールの付加価値を下げては成らない」

「もう既に充分世界は平和になってきた。もっと緩やかに改革する方が良いのでは？」

「はやて、一体何を焦って居るんだ？
もっと大きな目で広い視野で物事を見ないと自分の立場さえ失う事になるぞ？」

そう、あまりに優秀すぎるスクールの卒業生達は、その力をいかんなく発揮し、
既に世界の有り様を根底から変えようとするまでになっていた。
もう、悲しい涙を流す事も、理不尽な暴力や搾取に耐える事もなく、
誰もが自由に暮らしていける世界がそこにはあった。

たまに起きる凶悪犯罪でさえ、大半はスクール出身の局員に解決されてしまう事が多かった。
まだ、辺境世界ではそこまでの平和というのは実現出来ていないけれど、
それでも概ね平和で、昔に比べたら比べ用もないほど平和になった次元世界。

それでもスクールを増やせば局内で無用な争いが起きるとクロノに指摘された。
はやては初めてこの何年かを振り返った。
がむしゃらに、ただ管理局を改革する事だけを考えて突っ走ってきた。
いつの間にか、改革は成っていた。
そんな事にも気が付かず、それでも改革を求めて突っ走っていた。

それに気が付いた時、はやては思った。

「これからはもっとのんびりやって行こう」と……

## はやて振り返る（後書き）

ｓｃｈｏｏｌな人々、今回を持ちまして打ち切りとさせて頂きます。

次回作、ｓｃｈｏｏｌな人々？は１０年目の物語の裏話や
書ききれなかったエピソードを書く場として、復活する予定で居ます。

## ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2902m/

Schoolな人々

2011年7月26日20時40分発行